一般社団法人 ACC
〒105-0003 港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ﾕﾆｵﾝﾋﾞﾙ 6F TEL 03 - 3500-3261

資料 1

「2025 65th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」
各部門 審査委員長紹介・審査委員長メッセージ

■フィルム部門　福部 明浩 氏

catch
クリエイティブディレクター、コピーライター

京都大学工学部卒。1998 年博報堂入社。
2013 年独立、（株）catch 設立。

【受賞歴】
ACC 賞グランプリ、
TCC 賞グランプリ、
ADC 賞グランプリなど。

【主な仕事】
大塚製薬カロリーメイト、ボディメンテ、
日本マクドナルド「家族といっしょに」シリーズ、
KIRIN グリーンラベル、午後の紅茶、
クラシエいち髪、HIMAWARI、Latte、漢方セラピー、
グルメな卵きよら、QUO カード pay など。

【主な著作】
絵本「いちにちおもちゃ」シリーズ、
「たべてあげる」シリーズなど多数。

【審査委員長メッセージ】

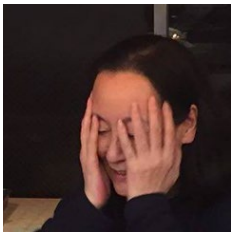
「最後まで見ちゃった！」、求む。

おそらく CM の最大の敵は、一日が 24 時間しかないことです。
見るものがとにかく多い現代。1 秒の価値は、史上最高値です。
大好きな推しが出てるドラマですら、おいしいとこ以外は倍速再生。
タイムラインも、次から次へと大好物を流してきます。
世界中のコンテンツが、バトルロワイヤルのように「1 秒」を奪い合います。
そんな修羅の時代において、CM を最後まで見てもらうことが、
いかに至難の技か。その上、ブランドを好きになってもらい、
あまつさえ買ってもらえるなんて、もはや奇跡です。天文学的奇跡！
ほぼ無理ゲーなんじゃないかと思う。
でも、そういう奇跡がときどき起こるのが、CM の面白いところですよね。
今回の審査でも、なるべくたくさんの奇跡を目撃したい。

一般社団法人 ACC
〒105-0003 港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ﾕﾆｵﾝﾋﾞﾙ 6F TEL 03 - 3500-3261

■フィルムクラフト部門　　※決定次第発表いたします。

■ラジオ＆オーディオ広告部門　中山 佐知子 氏



ランダムハウス
コピーライター、ディレクター

ランダムハウスで長くラジオ CM 制作に携わり、サントリー、トヨタ自動車、キユーピー等の作品を手掛ける。
1985 年にサントリー「角びん」、1991 年サントリー「山崎」で全日本ラジオ CM 大賞(現 総務大臣賞／ACC グランプリ)を 2 度受賞の他、 広告電通賞、フジサンケイグループ広告大賞、民放祭（現日本民間放送連盟賞）で大賞を受賞し、ACC 賞は 150 作品以上獲得。
長年 ACC 賞のラジオ CM 部門の審査委員を務め、経験豊かな視点と鋭い洞察力で審査に携わり、ラジオ CM 界の発展に寄与する。

【審査委員長メッセージ】

ACC に限ったことではありませんが、
審査をしていると「惜しい、何かが足りない！」と
思う CM があります。
何が足りないんだろう。もっと面白いャスティング？
アイデアの深掘り？言葉の選択？ストーリーの帰結？
視点の鋭さ？ビジョンの明確さ？
ああ、これを作った人に会いたいな。
会って、もっとがんばれと言いたいな。
そんなことを思ったりしながら、決戦に近い投票になると
票を入れられずに落としてしまいます。
ラジオはたいへん個人的なメディアなので、
ターゲットが絞りやすい。
アイデアを思いつくのは簡単かもしれない。
でも本当に面白い CM を作るのはけっこうむづかしいのです。
ラジオ CM をつくっているみなさん、
もうひと息、がんばれ。

一般社団法人 ACC
〒105-0003 港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ﾕﾆｵﾝﾋﾞﾙ 6F TEL 03 - 3500-3261

■マーケティング・エフェクティブネス部門　松村 眞依子 氏

日産自動車
日本マーケティング本部　ブランド＆メディア戦略部　シニアマネージャー

【経歴】
化粧品メーカーで営業職を経て、マーケッターとして商品開発、コミュニケーション開発を担当。2018 年に日産自動車に入社。主にブランドコミュニケーションと EV コミュニケーションの開発を行い、SNS の戦略立案と運営もリード。2023 年 4 月よりメディアチームにて、メディア戦略と戦略 PR を推進している。

【受賞歴】
・「日テレ CM 大賞 2020」にて企業広告「やっちゃえ NISSAN 幕開け篇」日テレ CM 大賞受賞
・「The One Show 2021」にて「ProPILOT GOLF BALL」Branded Entertainment: Craft / Use of Technology 部門でブロンズ受賞
・「第 52 回 フジサンケイグループ広告大賞」にて TVCM「サクラ　電気自動車になった軽」篇、雑誌「モーターファン」掲載広告、デジタル等　審査委員長特別賞
・「2022 62nd ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」にて シーマレストア
＜ACC ゴールド＞ ブランデッド・コミュニケーション部門 C カテゴリー(PR)
＜ACC ブロンズ＞ ブランデッド・コミュニケーション部門 D カテゴリー(ソーシャル・インフルーエンス)
他

【審査委員長メッセージ】
プラットフォームの多様化、広告スキップ機能の進化など、企業の情報やメッセージは、お客さまに届きにくい時代になってきています。しかしそんな時代でも、マーケティングの力でお客さまの心に響く、商品やサービス、またそれを表現するメッセージやクリエイティブを届けることはできると、マーケティング・エフェクティブの審査をしていると実感します。どんな時代になったとしても、お客さまのインサイトを捉え、ワクワクして頂けるマーケティングは必ずあると信じています。そのワクワクはお客さまや社会の役に立つもので、未来に期待が持てるものではないでしょうか。
マーケティング・エフェクティブネス部門は、単年でスピーディーに成果をあげたもの、複数年に渡る取り組みで成果をあげたもの、それぞれに光をあてます。キラキラしたマーケティングの底力を感じる作品を今から拝見するのが楽しみです。

一般社団法人 ACC
〒105-0003 港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ﾕﾆｵﾝﾋﾞﾙ 6F TEL 03 - 3500-3261

■ブランデッド・コミュニケーション部門　栗林 和明 氏　　※新任

CHOCOLATE
チーフコンテンツオフィサー

CHOCOLATE Inc.のチーフコンテンツオフィサー/クリエイティブディレクター。
映像企画を中心として、空間演出、商品開発、統合コミュニケーション設計を担う。

【受賞歴】
Ad Age「40 under 40」、ACC グランプリ、JAAA CREATOR OF THE YEAR メダリスト、Cannes Lions ゴールド、国際短編映画祭 SSFF&ASIA 部門大賞ほか、Spikes Asia、文化庁メディア芸術祭、ACC、釜山国際広告賞、など

【審査委員歴】
ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS、YouTube Works Awards Japan

【主な作品・お仕事】
映画『KILLTUBE』開発中、映画『14 歳の栞』企画プロデュース、映画『MONDAYS』宣伝、サントリー「GEKIAWA THE STRONG」「スパークリングパーク」、「6 秒商店」、lyrical school「スマホジャック MV」、「相鉄レコードプロジェクト」、Vlog 映画「もう限界。無理。逃げ出したい。」、「#とろねこチャレンジ」、「クリープハイプのすべ展」など

【審査委員長メッセージ】

「その他、募集。」

たまに「元気がない」と言われたりもする"広告"ですが、
いやむしろ、どんどん面白くなってきているのでは…？とも感じています。
それはますます"広告"が、どんな形にもなり得るから、です。

近年このブランデッド・コミュニケーション部門を受賞した仕事は
・野球場づくりの新しい形
・Z 世代に人気の新しい展示会の形
・ユーザーと本気で対話し生み出した冷凍餃子の商品開発
・創業者の知識をコンテンツ化したポッドキャスト
・ファンアートが絶えないオリジナルアニメ
・ブランドの世界を拡張したゲーム開発

などなど。
一見「これ広告なんだっけ？」と思うようなものも、
紐解けばそこには紛れもなく"コミュニケーションの知恵"が注入されており、ブランドを前に推し進めています。
こんなにいろんな表現、いろんなコンテンツ、いろんな事業に縦横無尽に踏み込める仕事は広告しかありません。

このブランデッド・コミュニケーション部門はそんな、カテゴリも定義しきれないような「その他」の創造性を求めています。
ぜひ、審査委員の頭を抱えさせるような未知のアイデア、お待ちしています。

一般社団法人 ACC
〒105-0003 港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ﾕﾆｵﾝﾋﾞﾙ 6F TEL 03 - 3500-3261

■PR 部門　眞野 昌子 氏

日本マクドナルド　広報部 部長
日本パブリックリレーションズ協会(PRSJ)副理事長

外資系 PR 代理店、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社を経て 2019 年 10 月より現職
国内外のヘルスケア企業、日用品メーカー、米国農務省、外資系金融機関など、さまざまな業界のマーケティング、プロモーション、啓発キャンペーン、危機管理広報や、社内広報、企業広報活動に携わる。
日本マクドナルドでは、対外広報、IR 広報及びインターナルコミュニケーションを担当。
PRSJ 認定 PR プランナー

【審査委員長メッセージ】
「PR 部門」は 2023 年に新設された新しい部門です。ACC 賞という広告を中心としたクリエイティビティを表彰する舞台が広がり、PR の影響力や可能性を信じる担い手がスポットライトを浴びる機会となっています。
PR ならではの多様な視点、メディアをはじめとした幅広いステークホルダーを巻き込むエンゲージメント、社会課題解決のための本質を見据えたアクションにつながる意識変革を促すアプローチ。
今年も「PR 部門」では、コーポレート PR やマーケティング PR、ソーシャルキャンペーンはもちろんのこと、パブリックアフェアーズ、CSR 活動／SDGs 活動、インナーコミュニケーションといった領域においても広く募集し、クリエイティビティを発揮して仕掛けたプロジェクトを表彰します。
皆様の積極的なエントリーをお待ちしております。

一般社団法人 ACC
〒105-0003 港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ﾕﾆｵﾝﾋﾞﾙ 6F TEL 03 - 3500-3261

■デザイン部門　川村 真司 氏

Whatever／Chief Creative Officer、Co-Founder
Open Medical Lab／Chief Creative Officer

Whatever のチーフクリエイティブオフィサー。180 Amsterdam、BBH New York、Wieden & Kennedy New York といった世界各国のクリエイティブエージェンシーでクリエイティブディレクターを歴任。2011 年 PARTY を設立し、New York 及び Taipei の代表を務めた後、2018 年新たに Whatever をスタート。2023 年より Open Medical Lab の CCO に就任。数々のグローバルブランドのキャンペーン企画を始め、プロダクトデザイン、テレビ番組開発、ミュージックビデオの演出など活動は多岐に渡る。カンヌ広告祭をはじめとした世界で 100 以上の賞を受賞し、アメリカの雑誌 Creativity の「世界のクリエイター 50 人」、Fast Company「ビジネス界で最もクリエイティブな 100 人」、AERA「日本を突破する 100 人」に選出されている。

【審査委員歴】
Cannes Lions、D&AD、NY ADC、One Show、Webby Awards、コクヨデザインアワード、文化庁メディア芸術祭、など

【主な作品】
Nike「Unlimited Stadium」、Google「Small World Restaurant」、Universal Music「Gagadoll」、NHK 連続テレビ小説「スカーレット」オープニングタイトルバック映像、安室奈美恵 MV「Golden Touch」、Vaundy × Morisawa Fonts MV「置き手紙」、ストップモーション時代劇「HIDARI」

【審査委員長メッセージ】
良いデザインとはなんだろう、を問い続けたい。

デザイン部門ではこれまで、とても幅広い領域の「デザイン」を審査してきました。今回もそこは変わらず、出来上がった作品のみならず、そのプロジェクト自体のプロセスや社会への提案性やインパクトといった、作品の「前後のデザイン」も評価していきたいと考えています。

ただ、今年は改めてデザインの「クラフト」にも、もっと注意して眼を向けていきたいなと考えています。プロジェクトのソーシャルインパクトといった側面はもちろん大事なのですが、もう少し小さくても美しかったり、シンプルに心地よかったりするようなカタチがもっと評価されてもいいのではないかと思っています。

あなたのプロジェクトが規模的に小さいものであったとしても、丁寧にクラフトのクオリティを積み重ねたものであれば受賞のチャンスがあるような審査をしたいと考えていますので、ぜひご応募ください。小さいもの、大きいもの、形あるもの、形ないもの、いろいろな素晴らしい「デザイン」に出会えることを楽しみにしています。

一般社団法人 ACC
〒105-0003 港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ﾕﾆｵﾝﾋﾞﾙ 6F TEL 03 - 3500-3261

■メディアクリエイティブ部門　檜原 麻希 氏

ニッポン放送
代表取締役社長

1985 年慶應大学卒業、㈱ニッポン放送入社。
2009 年デジタルメディア局長就任。2011 年編成局長。2015 年取締役編成局長
2016 年取締役営業担当。2018 年常務取締役　2019 年代表取締役社長。
幼少期は親の仕事の関係で、イギリスやフランスでの生活を経験した帰国子女。
仕事としては：radiko 立ち上げ初期メンバー、ストリーミングアプリで丸の内のラブソングステーション SuonoDolce の立ち上げ、2011 にオールナイトニッポンゼロの立ち上げ等

【審査委員長メッセージ】
メディアクリエイティブ部門は、広告という枠を越え、メディアのアセットを活用し企画やアイデアとの掛け算のクリエイティブによって、より立体的なアウトプットを評価するカテゴリーと考えています。逆に規定もないので、世の中を唸らせる「面白い」「新しい」「感動的」な作品をお待ちしています。多彩な審査チームで真剣に応募作品と向き合って行く事をお約束致します。

一般社団法人 ACC
〒105-0003 港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ﾕﾆｵﾝﾋﾞﾙ 6F TEL 03 - 3500-3261

■クリエイティブイノベーション部門　木嵜 綾奈 氏

NewsPicks Studios
取締役、Executive producer

早稲田大学卒業後、音楽業界で営業、洋楽部でメディア・プロモーションを担当。
2008 年に渡米し、テレビ東京 NY 支局のディレクターに。SPACE X イーロン・マスク CEO の単独取材や大手 IT 企業、アメリカ経済の取材を手がける。
フロリダでは Forbes Japan の取材を担当。サッカー選手本田圭佑氏、俳優ウィル・スミス氏のドリーマーズ・ファンドに関する記事を共同執筆する。
在米 10 年を経て帰国し、NewsPicks Studios へ。「The UPDATE」「OFFRECO.」「2 Sides」「EduPassion」等を立ち上げる。
2021 年に取締役就任。2025、2024 ACC クリエイティブイノベーション部門審査委員長、2023 ACC ブランデッド・コミュニケーション部門審査委員、EVIDENCE AWARD 審査員、BRANDED SHORTS 2023 審査員。

【審査委員長メッセージ】
日本は大きな転換期にあります。
AI などのテクノロジーが進化し、世界がどんどんつながる中で、私たちの生活は変わり続けています。
しかし、その一方で、クリエイティビティやイノベーションの力が十分に発揮されていない現実もあります。
新しいアイデアが枯れ、変化を恐れてしまう声もあるかもしれません。
少子高齢化や人口減少など、日本が抱える課題を解決するのが、クリエイティブイノベーション部門です。
将来への不安を乗り越えていくために、皆さんのアイデアが不可欠です。
どんなに小さなひらめきでも、どんなに突飛な発想でも、それが未来を作る第一歩となります。
皆さんの挑戦が、きっと新しい時代を切り開くきっかけとなります。
どんな困難があっても、情熱とアイデアがあれば、道は必ず開けます。
その一歩を全力で応援するために、皆さんと一緒に走り続けたいと心から思っています。

①企業・団体の新規プロジェクト
②スタートアップ
③クラウドファンディング
④大学や研究期間のプロトタイプ

多岐に渡ったプロジェクトからのご応募をお待ちしております。